

6. おわりに

本プロジェクト研究では、当初設定した目標が概ね達成されたと言えるが、健全性の評価等といった幾つかの技術開発が今後の課題として残された。主な課題とそれに対する今後の対応をまとめると次のようになる。

今後の課題としては、(1) 水循環系及び流砂系の健全性の概念(定義)とその評価手法に関する技術の開発、(2) 健全な水循環系の構築に関する技術と健全な流砂系の構築に関する技術を総合化する技術の開発、(3) 本プロジェクト研究の成果の社会的還元方法の明確化の3点が挙げられる。(1)については、防災・環境・利用上の問題が生じていない状態が「健全」であるといえるが、その定量的な評価手法は完成していない。大学を含む関係機関と連携して、「健全性」の概念をさらに整理するとともに、その評価手法を開発して生きたいと考えている。今後は天竜川流砂系をケーススタディーとして、問題の解消のための具体的な対策の検討を実施する予定である。(2)については、戦略的創造研究推進事業(CREST) 研究領域「水の循環系モデリングと利用システム」等の枠組みの中で、健全な水循環系の構築に関する技術と健全な流砂系の構築に関する技術を総合化する研究を進めていく予定である。(3)については、土砂移動モニタリング技術や地形変化推定技術を現地に適用できるようにガイドラインとして取りまとめ、公表していく予定である。

本報告のはじめにでも述べたように、水循環系及び流砂系では様々な影響や問題が顕在化してきており、それらの影響や問題を改善するための対策を講じることが求められている。それらの対策の検討と実施に際して、本プロジェクト研究の成果が反映されることを期待している。また、今後開発すべき課題として残された技術を取りまとめていきたいと考えている。